

妄想お題ったー

小高まあな

果実から忘れられた姫

その姫様は沢山の馬を飼っていた。

なかでもお気に入りの馬が子馬を生んだ。栗色の可愛い馬で、優しい目がお気に入りだった。

姫様は可愛い子馬と苺摘みに出かけた。城の皆には内緒だった。

突然の嵐。雷に子馬は驚いて逃げ出した。置いていかれた。

天然果実から忘れられたお姫様。

海から湧き出てきた王女

昔、津波が多く、人々は神の祟りだと恐れ、生け贄を捧げることを決意した。

王女が選ばれた。

津波はなくなり、王女に感謝した。

年月が流れ、人は王女の事を忘れ、次第に海が干上がっていった。

海の水が無くなると、一つの死体が現れた。

それは、王女。贄になる前の綺麗な姿のまま。

世界から落ちてきた花

屋上から下を見つめる。

黄色い車が走っている。

黒い服に黒い靴、それから彼岸花。吊うのは私自身。

後ろを向いて空を見上げる。そのまま重心を後ろに。遠ざかる屋上、空。

そして、少し遅れて赤い花が空から降ってきた。

さよなら、世界。

森から湧き出てきた少年

森の近くに住む少年は父親から暴力に耐えられなくなり、森へ逃げ込んだ。

森は広く、獣も住んでいて、人々は少年の死を確信し、涙した。

数年後、森は伐採されることになった。

森の中央の大木。

そこに人々が近づくと、枝から少年が落ちてきた。優しい少年は森に守られていた。

音から忘れられたシンデレラ

0時の鐘の前に帰ってきなさいね、と魔法使いは言っていた。

弾む心を抑えて王子様に対面する。想像よりも王子様はカッコよかった。差し出された手を取り、踊る。

気づいたら煙と共に衣服が元に戻ってしまった。

時計を見たら0時を過ぎている。

鐘の音が聞こえないぐらいの恋だった。

森から交差した月

月の光が交差した時、天使様が現れて願い事を叶えてくれる、ってジョンが言っていた。月は一つしかないからランプで代用するんだって。

夜中にそっと抜け出して森の中。一番高い木の上。

お願いします、天使様。もう一度ママに会わせて。

でも、ランプの光は月に届かない。

湖から湧き出てきた世界

その湖には、沈んでしまった都市がある。沢山の家が沈んでる。

湖にうつる私の顔が微笑む。私は微笑んでいないのに。

私だけが気づいてる。

皆が滅びたと思っているこの都市は、今も活動していることを。こっちの世界を鏡に映した状態なことを。

いつか水が引き、入れ替わるのだろう。

音から忘れられたアイドル

歌って踊れるアイドルとして売り出された。

対して上手くなかったけど、顔採用だったけど。それでもよかった。いつか認めてもらえると思っていたから。

でも、ストレスから声が出せなくなった。今や引きこもりだ。

使わない聴覚機能が早く衰えればいい。

私の噂を垂れ流すテレビを消した。

空から飛び出したアイドル

私には何もなかった。顔も普通だし歌も下手だしぽっちゃりだしトークも上手くないし、何も無かった。

でもある日、街でスカウトされた。そのままアイドルとして売り出された。少し不思議系のアイドル。

売り出し方が上手かったのだ。

今、私の存在が一人歩きしている。でも私は空のまま。